



プレスリリース

インフォシス基金、ナラヤナ・ヘルス・シティと提携し COVID-19 患者用に

100 床規模の隔離施設を開設

ベンガルール(インド)、2020 年 4 月 1 日: [インフォシス](#)の慈善事業と CSR を担う機関である[インフォシス基金](#)とインド最大のヘルスケア事業者ナラヤナ・ヘルスは、カルナータカ州ベンガールのナラヤナ・ヘルス・シティ近辺に COVID-19 (新型コロナウイルス感染症)患者用の 100 室を備えた隔離施設を開設することを発表しました。経済的弱者層に属する患者の治療を目的とした当施設は、患者を収容し、医師と看護師による定期的な管理が行われ、無料で必要な医療を提供します。

隔離施設の患者は、ナラヤナ・ヘルス・シティの医師と看護師が治療し、看護します。この提携はインフォシス基金の活動の新たな段階で、病院と隔離施設を拡張し、経済的弱者層に属する患者に対する適切な医療を確保するためのものです。今週初め、インフォシス基金は政府の COVID-19 救援活動を支援するために 10 億ルピーを拠出することを発表していました。

インフォシス基金の会長 Sudha Murty は次のように述べています。「病気は恵まれない人々を最も過酷に襲うものです。なぜなら、そういった人々は適切な治療を受ける余裕がないからです。同時に、病気と闘っている間に生活手段を失ってしまいます。私たちの社会で十分なサービスを受けられない人々が清潔で衛生的な収容設備を利用し、適切な医療を受けられるようにするために、当基金がしたことは、小さな貢献にすぎません。ナラヤナ・ヘルス・シティがこの計画に協力し、配慮してくださったことに感謝しています。」

ナラヤナ・ヘルスの会長兼エグゼクティブ・ディレクターである Devi Shetty 氏 は次のように述べています。「インフォシス基金と協力して、恵まれない患者のために 100 室の隔離施設を開設できることを嬉しく思います。患者を隔離できて、適切な医療が可能な安全な空間は、COVID-19 と闘うインドでは大きな役割を果たします。この取り組みを支援してくれたインフォシス基金に感謝しています。」

インフォシス基金について



1996年に設立されたインフォシス基金は、教育、農村開発、健康増進、芸術文化、貧困救済に対応するプログラムを支援しています。その使命はインドの辺境地で活動することです。インフォシス基金は、社会全体と協力し、限らない配慮でプロジェクトを選択し、これまで社会が見過ごしてきた地域で活動することを誇りにしています。詳細はリンク先をご覧ください。<https://www.infosys.com/infosys-foundation>

インフォシスについて

インフォシスは次世代デジタルサービスとコンサルティングのグローバルリーダーで、46か国のお客様のデジタル変革を実現しています。過去30年に渡り、グローバル企業のシステムと業務を管理してきた経験から、お客様のデジタル変革に専門的な支援を提供します。たとえばAIによる変更実行の優先順位付けを利用して企業がデジタル化を実現できるようにします。また、前例のない業績レベルを提供し、お客様に喜んでいただけるように大規模なアジャイルデジタルで業務を支援します。当社の絶えず学習するという方針に基づいて、革新エコシステムのデジタル技術、専門知識、アイデアが構築、伝達され、継続的な改善が推進されています。

リンク先 www.infosys.com では、企業が次のステージに進むために、インフォシス (NYSE: INFY) がどのように支援できるのかをご紹介します。

お問合せ先

インフォシスリミテッド 日本オフィス

マーケティング本部長 安藤 03-5545-3257 Email jo_ando@infosys.com